



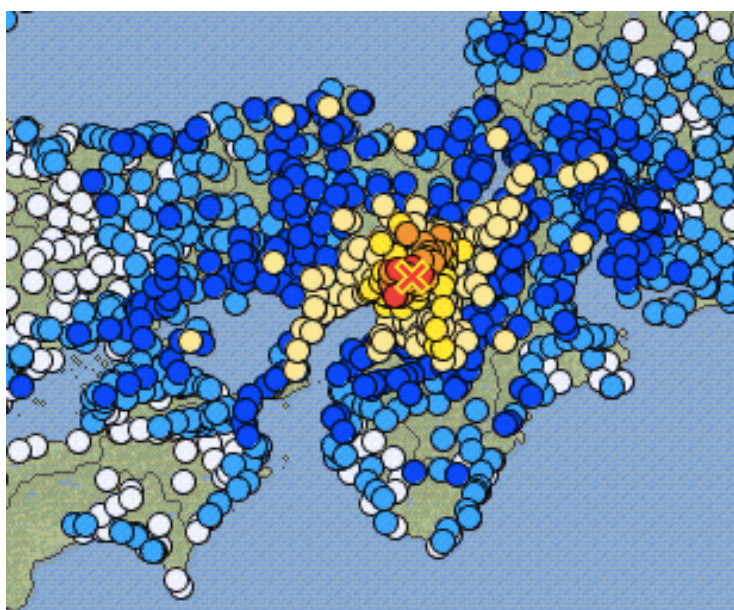
「災害は忘れた頃にやってくる」と言いますが、先日朝の大きな揺れに「南海トラフか!？」と驚かれた方も多いのではないのでしょうか。「備えあれば憂いなし」といいますが、いくら備えても備えすぎることはないと思います。身の回りのことなど今一度確認する機会にさせていただければと思います。

## 大阪北部で震度 6 弱

今月 18 日午前 7 時 58 分頃、大阪府北部を震源とする M6.1 の地震が発生しました。本日までに 5 名がなくなり、300 名以上の方がけがをされています。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます。

当院では最大震度 6 弱と DMAT の自動待機を満たすため、発災直後からメンバー中心に情報収集にあたりました。幸い当院には目立った被害がなく、情報収集を続けながら通常勤務となりました。夕方には近畿の DMAT 以外は待機解除となりました。

今回は発災が当直帯の終わり頃で日勤者が出勤してくる時間帯であったためマンパワーが多く得られ、私たちの初動は比較的スムーズでした。2 日後に開催された院内災害対策委員会では、「被害状況の詳細報告での赤患者・黄患者の基準がはっきりわからなかった」「アクションカードは夜間を想定して作られていたため時間内ではどうすればいいかわからず、戸惑った」「地震時に院内アナウンスがあった方がよかったのではないかなどといった意見が挙げられました。今後、委員会や各 WG 内で検討していきますので今しばらくお待ちください。



## DMAT 自動待機基準

- ▶ 東京都 23 区で震度 5 強以上の地震が発生した場合
- ▶ その他の地域で震度 6 弱以上の地震が発生した場合
- ▶ 津波警報(大津波)が発表された場合
- ▶ 東海地震注意情報が発表された場合
- ▶ 大規模な航空機墜落事故が発生した場合

## 「東京防災」ご存知でしょうか

都道府県が発行している防災マニュアルって堅苦しくて読みづらいという印象があるかと思いますが、今回ご紹介する「東京防災」はイラストが多くて非常に読みやすく、役立つ情報が満載です。東京という名前のおとおり、大都市という地域特性や都民のライフスタイルなどを考慮して書かれた「完全東京仕様の防災ブック」とされていますが、事前の備えや発災時の対処法など、普遍的な内容は全国どこに住んでいても活用でき、

いざというときにも役立つ情報を分かりやすくまとめてあります。例えば

・地震発生その瞬間

大震災体験者の中には、突然の揺れに「飛行機が落ちた」「工場が爆発した」「火山が噴火した」と感じた話す人もいます。身体がこわばって頭が真っ白になり適切な判断が難しくなる。あらかじめ家族と話し合う、防火防災訓練への参加などで取るべき行動を想像しておく、などが大切。

・発災直後の行動

揺れが収まってから行動する。火元を確認する。出口を確保する。ガラスのある建物や塀を避ける。再び揺れを感じたらすぐに物が「落ちてこない・倒れてこない・移動しない」場所へ避難。万が一閉じ込められて身動きができなくなったら、硬い物で周りを叩いて大きな音を出す。大きな声を出して助けを求めると、体力を消耗して命の危険がある。

など分かりやすくイラスト入りで記載されています。ブロック塀に近づかない事も書かれています。

冊子として有償で販売されていますが、web版であれば無料で読むことができます。また電子書籍やアプリも無料でダウンロードできますので、あらかじめスマホ、パソコン、タブレット端末などにダウンロードしておく災害時にインターネットが接続できなくても読むことができます。是非この機会に一読してはいかがでしょうか。



8月4日(土)は大規模地震時医療活動訓練です

毎年政府主催で開催される大規模な医療活動訓練ですが、今年は四国が会場です。本院の訓練の大枠が決まりましたのでご案内です。

日時:平成30年8月4日(土)朝から昼食を挟んで夕方まで。

内容:(午前)災対本部立ち上げ、通信機器操作、院内安否確認、DMAT受入、などの実働訓練  
(午後)籠城を中心とした机上シミュレーション訓練、他

場所:5階デイルーム、2階研修ホール、ほか

院内外どなたでも参加できます。参加希望者はお近くの災害対策委員会メンバーまでお申し出ください。「本番前の最後の訓練」かも知れません。どうぞよろしくお願いいたします。